

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

「地球温暖化の処方箋～ニッポン、適応へのチャレンジ～」(要旨)

(環境省広報誌「エコジン」(15年4/5月号)から)

- △ 地球温暖化対策には大きく分けて、温室効果ガス排出を抑制する「緩和」(省エネや再生可能エネ等)、既に起こりつつある、あるいは起こり得る影響に対し自然や社会の在り方を調整する「適応」(治水対策や熱中症予防・感染症対策等)の二つが有ります。

- △ 適応策を検討する際に、各地域の特性と地域住民の「影響の受けやすさ」をどう評価するか、その影響が温暖化によるものなのか別の要因なのか、適切に評価することが重要です。ただし、将来の気候変化を正確に予測することは出来ないので、計画的に少しずつ対応していくのが効果的と考えられています。

- △ 日本でも今夏目途に政府全体の取組みを「適応計画」として発表しますが、既に各地域でユニークな事例も出始めています。例えば、九州沖縄農業研究センターは高温に強いコメの新品種「にこまる」を開発、東京都は大雨時に一時的に水を貯めるトンネル式河川を整備、小笠原村では可搬式海水淡水化装置を41日間にわたって24時間連続運転し延べ約8万人相当分の水を供給、環境省は「熱中症予防情報」サイトを運用し情報提供に務めています。

以 上